

## 「第8回 日・韓・中環境創造型稲作技術国際会議」及び

### 「第2回日韓田んぼの生きもの調査交流」のご案内

#### 【開催テーマ】

—東アジアにおける生物多様性を活かした有機稲作の普及と地域環境の創造—

#### 【開催場所】

会議開催会場 栃木県宇都宮市東宿郷2-4-1 ホテル フェアシテイ  
JR宇都宮駅東口前 TEL 028-632-7777  
現地視察 栃木県の県北・県中・県南の有機水田を中心とした現地視察  
生きもの調査 栃木県・県中部地区 杉山農場  
栃木県日光市花石町1825-3 ホテルナチュラルガーデン日光  
Tel 0288-50-3070

#### 【開催期日】

2007年8月3日（金）～8月6日（月）

#### 実行委員会（主催団体）

NPO法人民間稲作研究所、NPO法人田んぼ、日本雁を保護する会、(財)日本野鳥の会、日本湿地ネットワーク、たんぼの生きもの調査プロジェクト、NPO法人日本国際湿地保全連合 全国有機農業団体協議会、日本有機農業学会、NPO法人日本有機農業研究会、(有)日本の稲作を守る会、(株)タイガーカワシマ、(株)アレフ、有機農業ネットワーク栃木、メダカ里親の会

#### 【協賛団体】

日本自然農業協会、パルシステム連合会、生活クラブ事業連合、東都生協、コープ自然派事業連合、(株)ビオマーケット、(株)ポラン広場、中間法人民間稲作研究所認証センター、BM技術協会、新潟県総合生活協同組合、ゼネラルプレス、(株)ジーピーエス、大地を守る会、(有)日本の稲作を守る会、(株)タイワ精機（5月31日現在、他交渉中）

#### 【後援団体】

農林水産省・有機農業推進議員連盟・栃木県・上三川町・(社)農村環境整備センター・JA全農・JA全中、下野新聞・栃木放送・とちぎテレビ（5月31日現在 他・環境省・宇都宮市・大田原市・塩谷町・読売新聞・毎日新聞・朝日新聞など交渉中）

## 第8回国際会議のご案内

水田は6000年の昔から、人類の3大主食と言われる栄養価に富んだお米が栽培され、同時に広大な湿地環境を作り上げて多様な生きものを育んできました。ところが第2次世界大戦以降、農薬や化学肥料をふんだんに使い、イネを効率よく栽培するための基盤整備が進められ、同時に食のグローバル化のなかで、食の安全はもちろん、豊かな環境を失い、稲作経営も不安定になってしまいました。日・韓・中の心ある農民はこうした事態を打破するために、2000年から各国持ち回りで、環境保全型（有機稲作）を中心にその技術の交流や環境と水田農業、有機農業を核とする各国の農業政策について情報の交換を行なってきました。

昨年は韓国全羅南道順天市で第7回韓・日・中環境保全型稲作技術国際会議を開催し、日本側からは稲作農家や研究者、生協、環境保護団体などを中心に40数名の参加のなかで、有機稲作を中心とした各国の技術情報や農業環境政策の現状を交流してきました。

有機稲作の技術面では韓国ではジャンボタニシ農法が増え、生態系への影響が懸念されることや、水田生物の多様性を活かした有機稲作が普及技術として未だ確立されていないなどの問題点が報告されました。

一方、水田を湿地として捉え、その持続可能な利用をめざす、ラムサール条約の精神を具体化するものとして、水田の豊かな生物を復活させる有機稲作が注目されました。2008年には韓国・昌原（チャンウオン）市で、第10回ラムサール条約締約国会議の開催が予定され、その準備がすすんでいるが、韓国・中国の生産現場では有機農法と自然再生の関連は充分追求されてきませんでした。そうしたなかで、初めて実施された有機水田を対象とした生きもの調査で、多様な水田生物が育まれている実態が浮き彫りになり、新鮮な驚きをもって消費者団体に受け止められました。

農業政策の展開については韓国の親環境農業育成法の新たな展開が紹介され、日本との対比において急速な広がりを見せる有機農業から日本が学ぶ部分は極めて大きいことが改めて認識されました。

日本国内での有機農業推進法の制定とあわせ、第8回を迎える国際会議は東アジアの稲作のあり方や農政の方向を示すうえで極めて大きな意義をもつものになると思います。完成度を高めてきている日本の水田生物の多様性を活かした有機稲作や韓国の有機稲作を核とした環境保全型農業への全面的転換をめざす農政の歴史的意義などについて東アジアの関係者が共通の認識をもって未来展望を共有する必要があると考え、第8回会議は有機稲作の発信地の一つとなっている栃木を会場に、東アジアにおける有機稲作のあり方とその可能性を探る集会として開催することと致しました。

また、昨年から取り組まれてきた生きもの調査も第2回日・韓生きもの調査として、栃木の有機水田を中心に実施し、その共有化をめざしたいと考えております。

つきましては、集会案内をご検討のうえ、ご支援、ご協力を賜りますようお願い致します。また集会には万障お繰り合わせのうえ、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

第8回日韓中環境創造型稲作技術会議実行委員会  
委員長 NPO法人 民間稲作研究所 稲葉光國

## 第8回 日・韓・中環境創造型稲作技術国際会議開催日程

第1日目 8月3日(金) [技術会議 1日目]

[現地視察] 10:00~17:00

### ①第1コース (県中コース)

宇都宮駅東口集合→民間稲作研究所→ドンカメ→会場

水田生物の多様性を育む有機稲作の提唱者である研究所の圃場見学とともに江戸後期に同様の農法を提案していた田村仁左衛門吉茂の生家周辺水田を見学し、東アジアの水田農業の過去と近未来を展望するコースです。地域循環型農業の実践団体であるドンカメもレインボープランに匹敵する取組みとして近未来展望の参考にして頂ければ幸いです。(定員 50名)

### ②第2コース (県北コース)

新幹線那須塩原駅西口集合→大田原市 古谷農場→杉山農場→西鬼怒→会場

明治18年に作られた那須疎水によって開墾された水田地帯の古谷農場とその周辺農家及び荒川沿岸の杉山農場は両者とも県内有数の大規模農家であるが基本技術が習得されれば生物多様性有機稲作の導入は容易であり、有機麦—有機大豆—有機イネの輪作体系の実践によって耕種農業の明るい未来を拓くものであることが証明されています。生き物の豊かさを回復するために設置された大きなビオトープと簡易魚道による淡水魚の遡上や水田での繁殖の様子も見ものです。西鬼怒土地改良区は宇都宮大学水谷研究室が中心になって環境配慮型の基盤整備を行った場所であり、簡易魚道の開発やドジョウ、カエルなどの生態を調査するフィールドで大学と地元農民のパートナーシップのあり方を示す好例です。(定員 50名)

### ③第3コース (県南コース)

小山駅東口集合→野木町館野農場→渡良瀬遊水地→タイガーカワシマ→会場

市民講座「みんなの有機農業」の館野氏の農場は、有機水田5haを1人で経営するモデル農場として完成度を高めています。抑草に成功しその実態は日本農業新聞に掲載されてきました。隣接する渡良瀬遊水地は公害の原点となった足尾鉍毒事件の幕引きとして強制退去となった旧谷中村で、今では野鳥の営巣の場所です。ラムサール条約への湿地登録も検討されています。

タイガーカワシマは遊水地西隣の農機具メーカーであり、民間稲作研究所の依頼で温湯消毒機を開発し製造販売している企業です。特別栽培を含め環境負荷低減技術の普及に貢献しています。(定員 50名)

[ 歓迎レセプション ホテル フェアシティ ] 18:00~20:00

開会行事 歓迎あいさつ 栃木県知事  
来賓あいさつ 有機農業推進議員連盟など  
主催者代表あいさつ  
韓国側代表あいさつ  
中国側代表あいさつ  
歓迎レセプション

**第2日目 8月4日(土)** [技術会議 2日目]

**第I部 東アジアにおける環境創造型有機稲作技術と環境再生**

**【基調報告】** (a m 9 : 00~11:00)

- ①日本における環境創造型水田農業の技術問題と環境再生運動  
NPO法人 民間稲作研究所 稲葉光國
- ②韓国における有機稲作技術の現状と環境再生運動について  
全羅南道親環境農業人連合会会長 姜大寅
- ③中国における環境創造型稲作の取組みとその現状  
吉林省延辺自治区図門市農業普及センター所長 金吉沫

**第II部 農業湿地としての水田の特性を活かした農業環境戦略**

**【基調報告】** (p m 11 : 10~13 : 00)

- ふゆみずたんぼが高める夏の水田の生物多様性と環境経済価値 (仮)  
日本雁を保護する会 呉地正行
- 韓国の生物多様性管理契約とラムサール ～韓国環境部による環境直接支払～  
韓国 UNDP (国連開発計画) 関係者 (交渉中)
- 水田に環境経済政策を誘導する道具としてのラムサール条約とその精神(仮)  
日本湿地ネットワーク 浅野 正富

**【分科会 I 現地報告とシンポジウム】 (14:00~17:00)**

- 東アジアにおける環境創造型有機稲作と生物多様性回復の可能性 —  
総合司会 舘野廣幸・石塚美津夫・洪淳明
- 報告1・北海道における有機稲作の可能性と環境再生  
北海道有機栽培農家 土井弘一・竹田広和
- 報告2・山形置賜における有機稲作の歩みと生きもの調査の新展開  
やまがた置賜産直センター 平田啓一
- 報告3・大規模稲作における有機稲作と環境再生  
滋賀県中主町 中道農場 中道唯幸  
コメンテーター 環境保全米ネットワーク 理事長 本田強  
栃木県農務部 山口正篤 (交渉中)  
滋賀県立大学名誉教授 橋川 潮 (交渉中)

**【分科会 II 現地報告とシンポジウム】 (14:00~17:00)**

- 日・韓・中における水田農業と湿地環境としての意義 —  
総合司会 岩渕成紀・金井 裕
- 報告1・水田と林に支えられた両性類の生態と水田管理 (仮)  
栃木県立博物館 学芸員 林 光武
- 報告2・中国洋県のトキの保護と有機農法の現状 (仮)  
環境文化創造研究所主席研究員 蘇 雲山
- 報告3・豊岡の環境経済戦略と湿地回復 (仮)

豊岡市コウノトリ共生部 佐竹節夫  
報告4・ふくおか 農のめぐみ100～生きもの目録作成ガイドブック 2007～報告(仮)  
農と自然の研究所 宇根 豊  
コメンテーター 東京農業大学客員教授 守山 弘  
宇都宮大学農学部教授 水谷 正一

懇親会 (pm 18:00～20:00)

### テーマ別自由交流会(午後8:30～ ホテルにて)

- ① 有機農業推進法第2ステージをめぐってー地方での期待と波紋ー
- ② 見えてきた「いきものを育む有機稲作」その技術をめぐって
- ③ 農業と環境政策ーラムサール条約・生物多様性国家戦略
- ④ テーマなし・自由討論

**第3日目 8月5日(日)** [技術会議3日目 9:00～12:00]

### 第Ⅲ部 東アジアにおける有機農業政策の展開をめぐって

#### 【対談】 有機農業への思いを語る

司会・通訳 中島紀一・青山浩子

金 成勲 (韓国 尚志大学総長・元農林部長官)

谷津 義男 (日本 有機農業推進議員連盟会長・衆議院議員・元農水大臣)

#### 【報告とシンポジウム】 東アジアにおける有機農業政策の現状と課題

総合司会 中島紀一(茨城大学教授)

親環境農業育成法成立の基盤と課題

韓国 金 種淑(韓国農業専門学校教授)

有機農業推進基本方針の内容とねらい

福田英明(農林水産省 環境保全型農業対策室長)

パネラー 金子美登(全国有機農業団体協議会)

鶴巻義夫(日本有機農業研究会全国幹事)

原 耕造(JA全農SR推進室長)

佐々木陽悦(JAみどりの理事)

### 閉会行事 11:40～12:00

大会宣言の採択

次期開催国からのメッセージ

閉会のあいさつ

## 第2回 日・韓田んぼの生きもの調査交流会日程

**第3日目 8月5日(日)** [技術会議3日目 12:30~20:00]

昨年の第1回韓日生き物調査は韓国順天湾に隣接する姜大寅氏の有機水田と洪城プルム生協で実施してきました。水田の土壌に潜み、偉大な役目をみせるイトミミズの存在に感動するとともに、水田で営まれる農法との関係が改めて認識され、たんぼをまるごと理解する大事な取り組みであることを実感してきました。今回は日光連山から流れる荒川に隣接する有機水田を舞台に、水田内ビオトープの役割と生きものの姿を現場で確認します。

国際会議参加者、そして韓国、日本の生産者、消費者、市民が共に安全な食の生産と生物多様性の両立を目指して取り組みます。

8月5日 12:15 ホテル フェアシティ前集合  
(午前中の国際会議の参加者、当日参加者を含む)  
12:30 ホテル フェアシティ 出発 (バス移動)  
13:00 杉山農場着 昼食  
14:00 「いのち育む有機稲作」と田んぼの生きもの調査の実際  
16:30 杉山農場発 (バス移動)  
17:15 ホテル ナチュラルガーデン日光 着  
17:30 (1) 田んぼの生きもの調査結果報告 岩渕成紀・稲葉光國  
(2) 韓国における田んぼの生きもの調査の展開  
洪城プルム生協より報告  
(3) 生き物調査の意義をめぐって フリー討論  
20:00 夕食・懇親会 (於:ホテル・ナチュラルガーデン日光 (宿泊))

8月6日 9:00 解散・朝食後 JR日光駅へ (バス等)  
【オプション】日光東照宮見学→足尾銅山強制連行受難者慰霊碑  
→星野富広美術館見学→JR宇都宮駅 16:00